

令和6年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立 萩原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「知識及び技能」では、どの項目も全国平均を上回っている。 ・「思考力、判断力、表現力」では、「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回っているが、「書くこと」「読むこと」では下回っている。 ・問題形式では、選択式、短答式は、全国平均を上回っているが、記述式は下回っている。
	よくできた問題	【「知識及び技能」（2）情報の扱いに関する事項】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	【問題形式（記述式）】人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	・「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4領域全て、全国平均を上回っている。 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点とも、全国平均を上回っている。 ・問題形式では、短答式、記述式は全国平均を上回っているが、選択式はやや下回っている。
	よくできた問題	【「思考・判断・表現」短答式】球の直径の長さと同立方体の一面の長さの関係を探え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	【「知識・技能」選択式】除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「自分にはよいところがあると思うか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して95%以上の児童が肯定的に回答している。 ・学習中におけるGIGA端末（ICT機器）の活用率が高く、自分の課題解決のために必要に応じて情報を収集したり、文章にまとめたり、プレゼンテーションをしたりするなどの技術が身に付いており、主体的に学習に取り組む姿が見られている。今後も学校全体で効果的なICT機器の活用を推進を図る。 ・「回答時間は十分であった」と回答した割合が国語・算数共に低かった。今後の課題として、思ったことや考えたことを限られた時間の中で書いていく学習を行っていく必要がある。 ・4月実施時は「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合が低かった。その後、キャリア教育の一環として「キッズニア福岡」で職業体験や「夢授業」で職業人との対話の機会などを設け、児童が将来の夢や目標を持つことができるようにしてきた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・算数科においては、全体的に全国平均を上回っているものの、部分的に下回っているところがあるため、今回の課題を中心に、小学校で学んだことの総復習に取り組む。 ・国語科においては、物語を読む力（人物像や全体像を具体的に想像する力）や物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く力など、記述力に課題がみられた。物語の要約や感想など、時間内に記述する機会を設定していく。
--

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・穴生中学校区9年間の活動プランにおいて、学びに関する目標を「自らの考えを広げたり深めたりできる子どもの育成」としている。小中で連携して発達段階に応じた到達目標を検討するとともに、児童が主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、様々な家庭学習の方法を提示・啓発していく。
--